

株主のみなさまへ

2006年9月

株主のみなさまにおかれましては、ますますご健勝のこととおよろこび申し上げます。初めてハガキ型を用いた「株主通信」を四半期の業績中心にお届けいたします。

7月31日発表の第1四半期決算(連結)では、

- ・売上高 1兆4,528億円 前年同期比112%
- ・営業損益 208億円 前年同期比227億円増
- ・当期純損益 40億円 前年同期比129億円増

と、増収増益となりました。従来、第1四半期では、事業の季節性を反映して損益がマイナス(損失)となる傾向がありました。当期は、全部門の営業損益が前年同期比で改善し、当期純損益は2001年度の四半期決算の開示開始以来、初の黒字化を達成いたしました。詳細はハガキの内側をご参照ください。

今後も株主通信などの機会を通じて株主のみなさまへの情報発信を充実させたいと考えておりますので、引き続きご支援をお願いいたします。

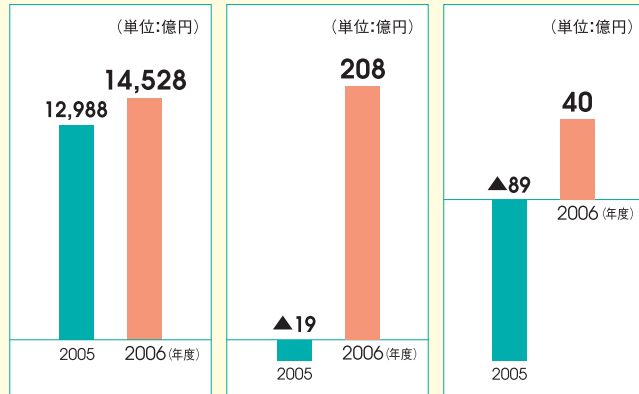


代表執行役社長

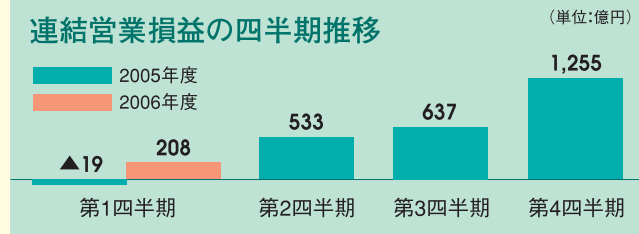
西田厚聰

2006年度第1四半期決算(連結)の概況

連結売上高 連結営業損益 連結当期純損益



郵便はがき

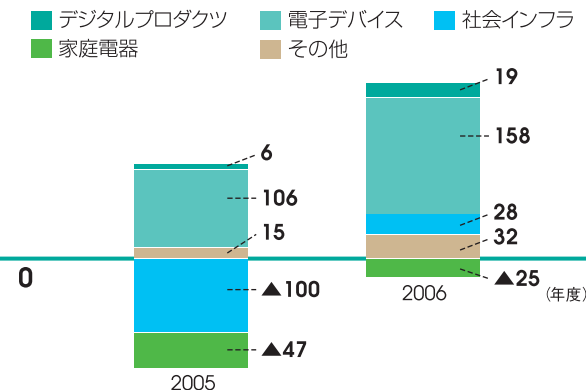


- 売上高 全部門で増収
- 営業損益 全部門で改善
第1四半期で社会インフラ部門が黒字化
- 当期純損益 営業損益の改善により増益
第1四半期で初の黒字化

決算説明会動画配信中 > <http://www.toshiba.co.jp/about/ir/>

第1四半期部門別営業損益の内訳

(単位:億円)



営業損益のセグメント間消去は2005年度 1億円、2006年度 ▲4億円です。

- デジタルプロダクツ部門 パソコンは低調だったものの、携帯電話、記憶装置の好調、テレビの改善等により増益
- 電子デバイス部門 半導体および液晶の改善により増益
- 社会インフラ部門 放送システム、医用システムの改善により、黒字確保

ご案内 株主通信は今年度から年4回発行、形式も冊子型とハガキ型にし、簡潔な内容で株主のみなさまと東芝をつなぐ情報誌を目指します。なお、本誌は、2006年3月末時点での株主のみなさまにお送りいたしますことをご了承ください。

*本株主通信に記載されている事項には、将来についての計画や予想に関する記述が含まれています。実際の業績は当社の予想と大きく異なることがありますことをご承知ください。





TOSHIBA

株式会社 東芝 株主通信 2006年秋号

株主のみなさまと東芝をつなぐ情報誌

株式会社 東芝

株主名簿管理人 事務取扱所

中央三井信託銀行株式会社 証券代行部
東京都杉並区和泉二丁目8番4号(証券代行事務センター)
郵便番号 168-0063 電話 0120-78-2031(フリーダイヤル)

まずこちらを
開く

濡れている場合乾かしてから
めくってください

2006年度第1四半期決算(連結)について

決算説明会 Q&A 質疑応答

Q 第1四半期の半導体事業の営業損益は計画通りでしたか? また、全社の営業損益も計画通りでしたか?

A 半導体事業は売上高・営業損益とも計画通りでした。全社では、社会インフラ部門が改善した分、計画を上回りました。

Q 全社の中間期営業損益計画550億円を達成する上で、心配があるとするなら何でしょうか?

A まず、好調な事業から見ると、半導体は計画通り達成できると見えています。既に前年同期比で大幅に改善した社会インフラ部門は、中間期でも改善を目指します。第2四半期以降、損益の懸念要因として考えられるのは、パソコン事業です。米国市場でシェア獲得競争により、厳しい売価下落が続いているためです。しかしながら、東芝全体では、中間期での営業損益計画550億円を上回る利益の達成を目指します。

株主通信アンケート

ホームページ「投資家情報」サイトで株主通信に関するアンケートを実施しています。ご意見、ご感想をお寄せください(9月末まで)。

<http://www.toshiba.co.jp/about/ir/>

書面でのご意見

〒105-8001 東京都港区芝浦1-1-1
株式会社東芝 広報室 宛 お送りください。

ここに注目

6月22日 発表

世界初 HD DVD搭載ハードディスクレコーダー「RD-A1」を7月27日から発売




8月4日 発表

NAND型フラッシュメモリの生産能力増強のため、四日市工場*内に新製造棟の建設を開始**

*三重県四日市市 **2007年10~12月期に量産開始予定。

6月23日 発表

「東芝150万本の森づくり」運動を展開
社会貢献の世界統一テーマとして推進



創業150周年を迎える2025年に向け、東京ドーム約107個分に相当する規模の森林整備を目指す「150万本の森づくり」運動を展開します。日本国内、中国、アジアを中心に世界中から対象地を選定し、行政・NPO(非営利組織)の活動への協力や、当社グループ従業員などのボランティア活動により、本年度から1年あたり10万本以上のペースで森作りを行います。今後、世界中の東芝グループ企業で森の生物多様性も大切にしながら地球環境保護に貢献するとともに、従業員の社会貢献・地球環境保護意識の向上を図っていきます。***企業の社会的責任

発表の詳細は <http://www.toshiba.co.jp/>の「プレスリリース」でご参照ください。